

母校のオープンスクールに参加

中学生を対象に「看護師になるための過程について」スピーチをしました

大内 麻冬



声の大きさは
どうだろう？
皆に聞こえて
いるかなあ？

話すスピード
は、速くない
かなあ？



10月9日に母校である明誠学院高等学校のオープンスクールがありました。そこで中学生15名を対象に看護師についての様々な話を1時間くらいスピーチしました。

話をしている時、中学生たちは、スライドの方を見てくれていましたが、実際、どこまで私の説明が相手に正確に伝わっているのか分からないまま、とてもドキドキしながら話しました。しかし、スピーチを終えた後に話を訊いてみると、赤十字の看護学校に興味をもっている中学生もいたので、とても嬉しく感じました。

今回看護師や臨床心理士になりたい人が来ていましたが、まだ夢が見つからない人もいました。私の話で何か少しでも看護師に対する魅力を感じてもらえたなら、とてもうれしく思います。

相手の反応を見ることの重要性を、患者さんへ看護行っていく上でも日々学んでいます。スピーチをする上でも大切な事であると今回改めて実感しました。また、言葉としてではなくても、ノンバーバルコミュニケーションとしてうなずき、眼差し、見る方向など相手の態度や仕草などからも反応を観察することが、理解度を確認するためにもとても重要であることを学びました。